

令和7年7月23日
この世界を歩くとき、

“Serving the public” 公共に仕える

～ 平和で豊かな社会が維持されるために ～

私は小さな力しか持っていない一人の人間ですが、それでも公共に仕えることの大切さを日々感じています。大きなことはできなくても、自分にできる範囲で、社会や周りの人々のためになる行動を心がけることが、自分なりの貢献だと思っています。

たとえば、日々の生活でルールを守ること、人に思いやりを持って接すること、仕事や勉強に真剣に取り組むこと。それらはすべて、巡り巡って知らないところで、誰かの穏やかさや社会のやさしさにつながっていくのではないのでしょうか。ひいては、平和で豊かな社会のやすらぎにつながっていくのではないのでしょうか。直接「誰かのため」と意識しているわけではない時でも、結果として役に立てたと感じられたとき、ほんの少しでも社会に貢献できた喜びを感じます。

私一人の行動が社会を大きく変えるとは思っていません。それでも、同じような思いを持つ人が少しずつ増えていけば、社会全体がより良い方向へと進んでいくと信じています。そして、自分が暮らすこの社会が、安心して生きられる場であり続けるためにも、公共へのまなざしを忘れず、自分にできることを一つずつ積み重ねていきたいと考えています。これからも謙虚な気持ちを大切にしながら、日々、自分と向き合う一人の住民として、公共に仕える意識を持ち続けたいと思います。



きたむらとしふみ U. S. インターデノミネーション・クリスチャン
喜びと安らぎだけで生きることを決めて10年。その経験からしみ出る人との関わり方への筆致には定評があり、「ゆるし」という人間の内面にある深層を、独自の視点で探究し、静かに言葉にしています。